



自尊と敬虔

和木中学校だより 第2540号

令和6年9月2日（月）

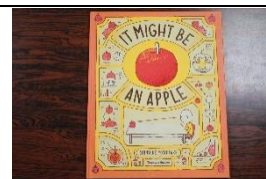
〒740-0061 和木町和木2丁目5番2号

TEL 52-4328 FAX 52-5265

和木中Webページ <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~waki-jhs/>



マカロンかもしれない



校長 鬼武伸哉

なぜでしょうか。ツクツクボウシが鳴き始めるこの時期になると、セピア色した母校の校舎と校庭の風景とともに、母に手を引かれラジオ体操に参加した、小学校低学年の8月末を無性に懐かしく思い出します。秋の気配を肌で感じながら、夏休みが終わることに対する一抹の寂しさを覚えていたように思います。

ラジオ体操と言えば、裏面で何枚かの写真を通して振り返りますが、8月5日の早朝に和木小学校の校庭で、小学校創立150周年を記念した「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が開催されました。およそ750人の参加者が元気よく体を動かされた大きなイベントで、保護者の皆様の中にも参加された方がおられるのではないのでしょうか。個人的には、ラジオ体操第2を実演したのは、本当に久しぶりのことでしたが、意外と体が覚えていることに驚きました。また、今でも耳にするたびに心が躍る、ラジオ体操の歌「新しい朝が来た 希望の朝だ 喜びに胸を開け 大空あおげ ラジオの声に 健やかな胸を この香る風に 開けよ それ 一 二 三」を巡回ラジオ体操の現場で口ずさむことができ、感無量でした。和木町や和木小学校の関係者の方々には、命があるうちにこのようなイベントに参加する機会をいただき、本当に感謝しております。

話は変わりますが、つい先日、工芸品等に造詣の深いある本校職員が、人気絵本作家のヨシタケシンスケさんの作品の一つを写真で紹介してくれました。どこかで見かけたことのある彼独自のキャラクターを彷彿させる可愛いく、けっして憎めない味のある立体作品でした。6月の生徒集会で、私が英語科教員を志した理由として、Dr.Seuss という作家による絵本”THE CAT IN THE HAT”を挙げ、生徒に話しましたが、実は私が所有する絵本の中に、日本人作家による絵本と知らずに、海外で購入したものがあります。それが、ヨシタケシンスケさんのデビュー作「りんごかもしれない」を英語に翻訳した”IT MIGHT BE AN APPLE”です。りんごを様々な角度から見つめ、「本当にりんごなのか？」という疑問から展開される数々の不思議なアイデアが詰まった彼の作品は、言語の壁を超えて、私たちを惹き付けます。8月25、26日付朝日新聞に、彼が昨年、心の不調に悩み、「名付けようのないつらさ」を通して考えたことが掲載されていました。漠然としたボスキャラ級の不安が現れ、何の感情も発動しないつらさやしんどさから逃れたいくなる気持ちが赤裸々に綴られています。なかなか「助けてボタン」を押せない中、ついに今年3月、心療内科を受診することができた自分にホッとされたそうです。彼は、「助けてボタン」を押すことに思い悩んでいる人が利用できるウェブ空間「かくれてしまえばいいのです」の作成に尽力されました。その空間への投稿に目を通していると、「自分は何も役に立っていない」という生産性のストーリーに苦しめられている人が本当に多いそうです。生産性を大切にすることが間違っているわけではないけれど、何かを求められたときに、「まだわからないです」と言える勇気が、中ぶらりである勇気が、本来は必要だと彼は訴えます。「こんな世の中ですが、少しでも気分が楽になれる習慣を見つけて、日々を過ごしていきましょうね。」と彼は記事を結んでおられます。

2学期が始まり、体育祭や文化祭等、多くの子どもたちが楽しみにしている行事に向けた準備が本格的に始まろうとしています。日々の忙しさと相まって、お子様が心の苦しさを訴える場面に直面されたり、「助けてボタン」を押すことをためらう様子に気付かれたりすることがあるかもしれません。そんなときは、遠慮なく学校に連絡していただけますよう、願っております。もちろん、ヨシタケシンスケさんが作成に携わられたウェブ空間や各種相談窓口を活用されることもご検討いただきたいと思います。

ちなみに、表題に用いた「マカロンかもしれない」は、出産を控えた私の知人が、いわゆる「産後ハイ」の状態に自身が陥り、愛しい我が子を目にして、「マカロン」と名付けるかもしれないと危惧して口にした表現を取り上げました。彼女は漢字検定準1級に合格したことがあり、子どもには思い入れのある漢字を使って名付けると言い切っています。にもかかわらず、出産で精神的に不安定になることを予想し、そのような事態になったときに誰か私を止めてほしいと真顔で語っています。心は、誰にも、見えません。そして、たとえ自分の心であろうと自らコントロールしきれると断言できる人はそう多くはないはずです。だからこそ、周りにいる人たちと連携を図り、よりよい日常生活を継続できるよう、心がけたいものです。

夏休みも、様々な行事や活動で子どもたちが成長しています

今号では、夏休み中のいくつかの活動の様子を、写真で紹介したいと思います。

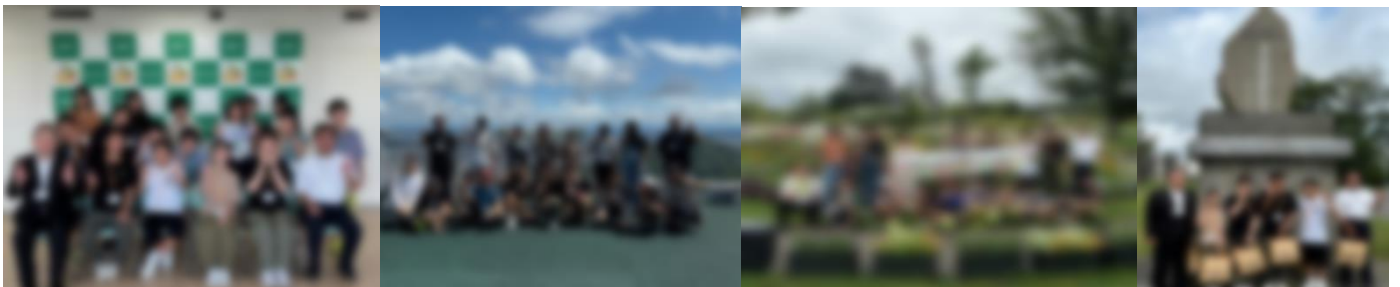
夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会 8月5日（月）

表面で紹介しました和木小学校の創立150周年を記念した「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」には、その会場準備や後片付けに本校生徒も携わっています。早朝5時30分までの集合でしたが、気持ちよく来場者にあいさつをするなど、朝のイベントを盛り上げる清々しい姿に感心しました。



姉妹都市恵庭市教育親善使節団交流 8月 6日（火）～8日（木）

明治19年頃、和木村から多くの人たちが開拓をしに、北海道の恵庭付近に移住したという事実に基づき、昭和54年に和木町と北海道の恵庭市との姉妹都市縁組が結ばれました。今年度は、和木町から教育親善使節団が恵庭市に派遣され、和木小学校、和木中学校の4名の児童・生徒とともに、現地で様々な交流活動に取り組んできました。



ニュージーランドホームステイ研修 7月29日（月）～8月13日（火）

和木中学校から5名の生徒が夏休み中にニュージーランドに派遣され、国際交流活動を展開しています。写真入手していないため、文字による紹介のみに留めさせていただきます。

家族労作活動 8月18日（日）

酷暑の中、早朝より多くの保護者の皆様に本校グラウンド周辺の清掃活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。自治会の方々にもボランティアでご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

